

社会科学学習指導案

指導者 藤井 善貴

単元名

「今に伝わる室町文化」

令和元年7月3日（水）

第6学年3組 男子17名 女子14名 計31名

本単元で育成する資質・能力

判断力

考え・表現する力

認め・高め合う力

1 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

判断力	考え・表現する力	認め・高め合う力
本単元における「判断力」は、複数の資料から必要な情報を選び出し、関連付けて、問いに対する自分の考えを持つことである。	本単元における「考え・表現する力」は、資料を根拠に自分の考えを相手に分かりやすく伝えることである。	本単元における「認め・高め合う力」は、他者の考えを自分の考えと比較・関連付けて聞き、自分の考えをよりよくしようとすることである。

2 単元設定の理由

本単元に関連する学習指導要領の内容は、次の通りである。

（2）我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。その際、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。

（エ）京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画を手掛かりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解すること。

（シ）遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

○単元観

（ねらい）

本単元では、京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画とそれらに関わる人物の働きから学習課題を見いだし、文化財、地図や年表、その他の資料を活用して調べたことをまとめるとともに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解することをねらいとしている。

（系統）

既習の単元「天皇中心の国づくり」では、聖徳太子や聖武天皇が、遣隋使や遣唐使を派遣し、政治の仕組みなどの大陸文化を積極的に摂取しようとしたことを学習した。前々単元「貴族のくらし」の学習では、貴族の生活や文化を手掛かりに、日本風の文化が生まれたことを学習した。中学校では、農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことなどを学習する。

○児童観

①前単元のテスト

「大化の改新や大仏づくりによって、天皇を中心とした政治の仕組みが確立されたことを理解している。72%（テスト 社会的な思考・判断・表現）」人物の働きと歴史の展開を結び付けることが難しい児童がいる。単元構成を工夫していく必要がある。

②対話的な学習

ペアやグループで話すことで、自分の考えが深まると思う75%（アンケート）。クラスみんなで話すことで、自分の考えが深まると思う88%（アンケート）。練り合うことの良さを感じていない児童もいる。また、共感的に聴くことが難しい児童も多い。

③振り返りの記述

わかったことを書くことは多くの児童ができているが、自分の考えの変化やその要因を振り返ることが充分ではない。

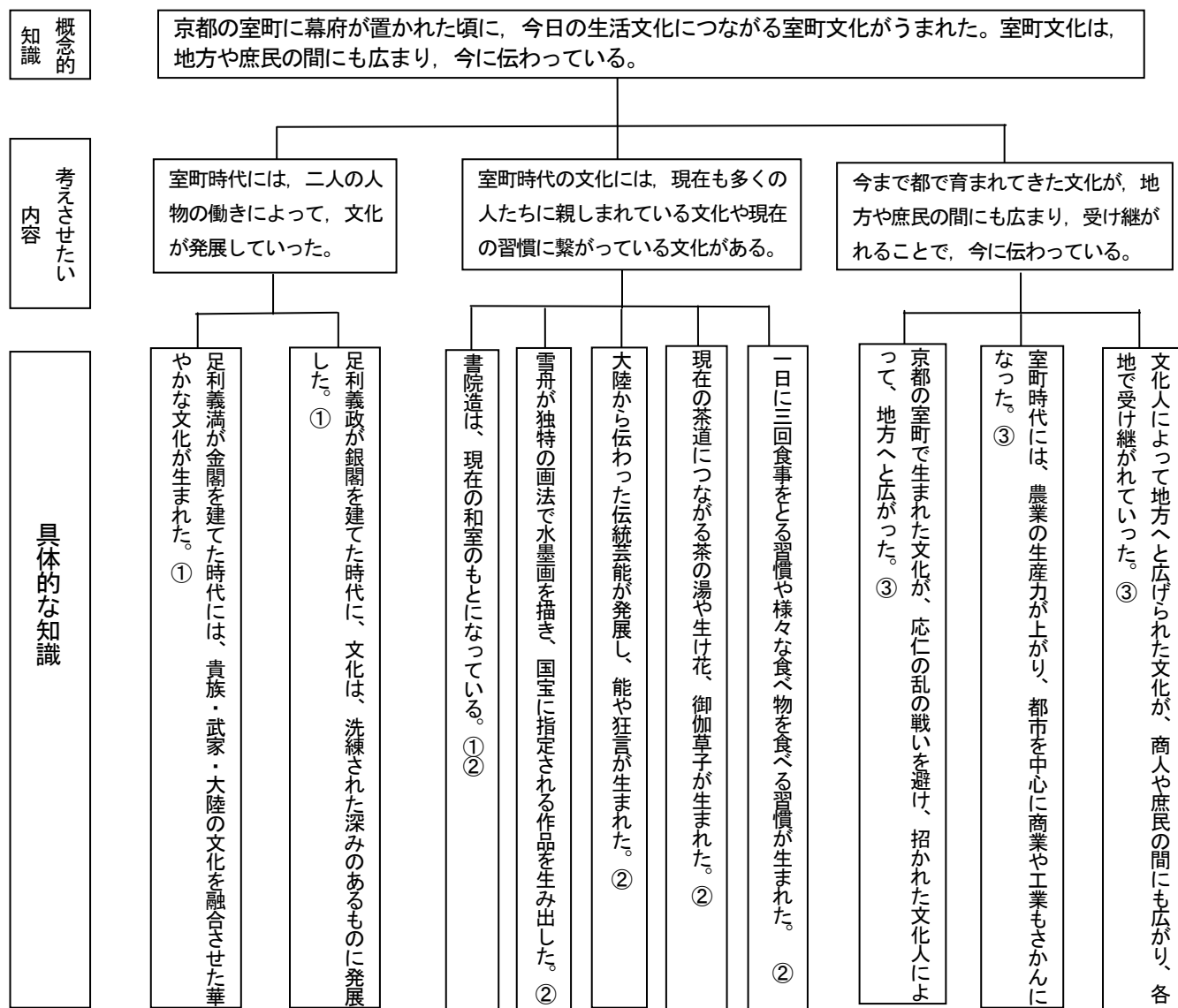
○指導観

① 単元を貫く大きな問いを設定し、単元終末まで学習意欲を継続させる。また、歴史の流れと人物の行為が比較・検討できるような課題設定の資料や発問を工夫し、児童の主体的な学びを促していく。

② 学習課題に対して予想を出させ、調べることを方向付けることで、何について調べるのかという視点を明確にする。その上で、ペアトークをする際には、共感的に聞くことや相手の良いところや改善した方が良いところを伝えることで、より深い対話ができるようにしていく。

③ 自分の考えの変容を自覚させるために、自分の予想とまとめを比較させて、振り返りを記述させる。

〈知識の構造図〉



3 単元の目標

- 京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画などを手掛かりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解することができる。(知識・技能)
- 京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画などについて調べ、これらの事象に関連付けたり総合したりして、この頃の文化の特色や室町文化が今の生活の土台になっていることを考え、文章で記述したり説明したりすることができる。(思考、判断、表現)
- 社会的な事象について意欲的に調べたり、社会的な現象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたりして、調べたことや考えたことを表現しようとするすることができる。学習成果を基に生活の在り方やこれからの国家及び社会の発展について考えようとするすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画などを手掛かりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解している。	京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画などについて調べ、これらの事象に関連付けたり総合したりして、この頃の文化の特色や室町文化が今の生活の土台になっていることを考え、文章で記述したり説明したりしている。	京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。学習してきたことを基に長い歴史を経て築かれてきた我が国の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとしている。

5 指導と評価の計画（全4時間）

単元を貫く大きな問い	主体的な学びの過程	次	時	○主な学習活動と内容 ★めあて	●指導上の留意点	◇評価規準
(京都に幕府が置かれていたころに発展した) 室町文化には、どのようなものがあるのだろうか。 (なぜ室町文化が今に伝わるのだろうか)	課題の設定	一	1	○ 京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物について話し合い、学習問題を設定する。 ★ (室町時代には、) なぜ華やかな文化から深みがある文化へと発展したのかを考え、学習問題をつくろう。	● 金閣と銀閣の写真を提示し、どんな感じがするか、どちらが新しいかを想像させ、答えを示すことで、児童の問いを引き出す。 ● 予想の前に、調べ方(人物から)を方向付けることで、予想や資料を調べる際に、何について調べるのかという視点を明確にする。 ● 書院造づくりが現在の和室のもとになっていることに気づかせ、単元名と関連付けて学習課題を考えさせる。	◇ 京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物に関心をもち、学習問題や予想を考え、進んで調べようとしている。 【主】
			2	○ 室町時代に生まれ、現在も親しまれている文化を調べる。 ★ 室町文化には、書院造の他にどのようなものがあるのだろうか。	● 資料を調べてまとめる時間を確保するために、単元を貫く大きな問いから、課題設定をすばやく行う。 ● 調べた文化を生活面と娯楽芸能の面の二つの視点で整理し、現在の習慣になっていたり多くの人たちに親しまれたりしていることをまとめる。	◇ 各種の資料を活用して、室町時代の文化には、現在も多くの人たちに親しまれている多くの文化があることを読み取っている。 【知・技】
	情報の収集・整理分析	二	3 本時	○ 室町文化が地方や庶民に広がった要因について考える。 ★ 京都の武士を中心に生まれた文化なのに、なぜ、地方や商人、庶民に広がっていったのだろうか。	● 貴族の文化も、京都の貴族を中心に生まれたことと比べさせることで、本時の課題を設定する。 ● 事実と考えられることを分けて出させ、農業技術の向上が、商業や工業の発展に繋がったことについて、資料を関連付けて想像させる。	◇ 室町文化が地方や民衆に広まった背景について考え、適切に表現している。 【思・判・表】
			4	○ 学習問題について調べてきたことを整理し、これからの日本文化について考える。 ★ 室町文化の良さとは何だろう。	● 室町文化が受けつがれていることの不思議(畳は表替えの必要性がある、茶の湯は作法が難しく堅苦しいなど)を感じさせ、本時の課題を設定する。 ● グループ(茶の湯、墨絵、和室、能)に分けて、調べたりまとめたり説明させたりすることで、興味関心に応じた学びと必然性をもたせる。 ● 調べてきた文化に人々が触れる機会が減っていることに気付かせることで、これからの文化や自分の関わり方について考えさせる。	◇ 学習してきたことを基に長い歴史を経て築かれてきた我が国の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとしている。 【主】
	まとめ・創造・表現・実行・振り返り	三				

6 本時の展開（3／4）

○本時の目標

室町文化が地方や民衆に広まった背景について考えることができる。

【思考・判断・表現】

○気持ちのよい学びの場作り

- ・ 自分の考えを伝えられるように、自分の考えを持つ時間を設定する。
- ・ 相手の意見を受け入れられるように、まずしっかりと聞くことに集中させる。参考にしたい考えを赤で加筆したり、相手の意見につなげて発言したりできるような聞き合う雰囲気を作る。

○本時の展開

学習活動 発問（○）中心発問（◎） 予想される児童の反応（・）	指導上の留意事項（◇） 努力を要する状況と判断した 児童への支援（◆） 対話的学習（□）	評価規準【観点】 （評価方法）
1 前時の振り返りと資料から、本時のめあてを設定する。 ○ 学習問題（単元を貫く大きな問い）について、学習したことを整理しましょう。 ○ 教科書の記述から学習問題の答えを考えましょう。 ・ 今につながるのは、京都の武士を中心に生まれた文化が、商人や庶民の間にも広がり、各地で受けつがれていったから。 ○ 貴族の文化は商人や庶民の間に広がりましたか。	◇ 室町文化について調べてきたことを確認し、本時では、「なぜ室町文化が今に伝わるのか」を考えていくことを確認する。 ◇ 教科書 P63「お祭りやぼんおどりなども各地で行われました」「京都の武士を中心に生まれた文化は、商人や庶民の間にも広がり、各地で受けつがれていきました」を提示する。 ◇ 貴族文化も室町文化も、身分の高い人たちが京都で生んだ文化であることに気付かせ、本時の課題へ繋げる。	
【めあて】 京都の武士を中心に生まれた文化なのに、なぜ、地方や商人、庶民に広がっていったのだろう。		
2 予想する。 ○ 予想をノートに書きましょう。 ・ 京都の人が地方に行ったから。 ・ 地方の人が学びに行ったから。 ・ 商人・庶民の生活が良くなったから。 3 資料からどのように地方に伝えたか、商人や庶民の生活にゆとりができた理由について考える。 ○ 教科書 P63 と資料集から、どのように地方に伝えたか、商人や庶民の生活にゆとりができた理由がわかる場所に印をつけましょう。 ・ 将軍に仕えて京都で生活した人たちが地方に帰ってきて伝えた。 ・ 文化人が応仁の乱を避けて地方の都市にやってきて伝えた。 ・ 農業の生産力が上がったから。 ・ 都市を中心に商業や工業もさかんになったから。	◇ 地方に伝えるのはどんな人か、商人・庶民の生活が向上した理由を考えさせることで、予想を深め、資料で調べることを焦点化させる。 □ 教科書と資料集から個人で読み取る時間、ペアで確認する時間を設定する。 □ 資質・能力を意識させ、共感的に聴かせる。判断力・表現力を高めるために、アドバイスし合うことを促す。 ◇ 調べてまとめたことを整理することで、わかっていないこと（生産力が上がる、都市を中心に商業や興業がさかんになる）に気付かせ、思考を深める問いに繋げる。	

4 商人や庶民の生活が良くなった要因について考えを深める。		
◎なぜ商人や庶民は、生産力をあげたり商業や工業をさかんにしたりできたのだろう。 ◎ なぜ商人や庶民は、生産力をあげたり商業や工業をさかんにしたりできたのだろう。 ・ 新しい道具ができて生産力が上がったから。 ・ 職人が増えたり道具が改良されたりしたことで、生産量が増えたから。 ・ 農作物や道具などが増えたので、市でたくさん売ることができるようになったから。 ・ 生産力が増えると、生活にゆとりができて、買う人が増えたから。 ・ 農業や工業、商業が儲かる仕事となり、次々に始める人が増えたから。 5 学習のまとめをする。 ○ めあてに対するまとめを書きましょう。 【学習のまとめ】		
	◇ 資料から個人で考える時間、グループで協議する時間を設定する。 ◇ 資料（農作業の様子、学芸員さんの話、主な市と港町）から、事実と考えられることを分けて出させ、農業技術の向上が、商業や工業の発展に繋がったことについて、資料を関連付けて想像させる。 ◇ 木製鍬と備中鍬で乾いた水田を耕すことを想像させたり、機織りの動画を提示したりすることで、技術の向上が生産力の向上に結び付いたことを実感させる。 ◇ キーワードを使って書くように声をかける。「将軍に仕えた人たち」「応仁の乱」「農業技術の向上」「庶民のゆとり」「商業や工業」 ◆ 大切な気付きは、色を変えてキーワード化して板書しておく。	◇室町文化が地方や民衆に広まった背景について考え、適切に表現している。 【思判表】（ノート）
6 振り返りをする。	○ 四つの視点（①わかったこと、できたこと②友達の考えで自分の考えが変わったこと③考えが変わった理由④次に生かしたいこと、もっと学習してみたいこと）で振り返らせ、学びを自覚化させたり学習の意欲を高めたりする。	

7 板書計画

7/3 ⑦ 京都の武士を中心に生まれた文化なのに、なぜ、地方や商人、庶民に広がっていったのだろう。

予想

- ・ 京都の人が地方に行ったから。
- ・ 地方の人が学びに行ったから。
- ・ 商人・庶民の生活が良くなったから。

○地方への伝わり方

- ・ 将軍に仕えた人⇒地方（大名や家来、旅の僧）
- ・ 応仁の乱をさけた文化人⇒地方

○商人や庶民への広がり方

- ☆生活が良くなる
- ・ 農業の生産力があがる（農民）
- ・ 商業・工業がさかんになる（商人・職人）

貴族の文化

室町文化

地方や民衆に広がる

なぜ商人や庶民は、生産力をあげたり商業や工業をさかんにしたりできたのだろう。

農作業の様子と機織りの様子	主な市と港町	学芸員さんの話
---------------	--------	---------

農業

- ・ 二毛作
- ・ 肥料
- ・ 農具
- ・ 技術

商業や工業

- ・ 買う人が増える
- ・ つくるものをふやす（職人）
- ・ 売る場所をふやす（商人）
- ・ 売れる
- ・ 職人や商人がもうかる

農業技術向上

生活が良くなる

⑧

地方に広がったのは、将軍に仕えた人たちが地方に帰って広めたり、文化人が応仁の乱によって地方へ行ったから。商人や庶民に広がったのは、農業技術向上によって、生活が良くなった（力が高まった）から。

資料① 農業の様子 (大石 学ほか, 小学社会 6, 教育出版株式会社, P122)

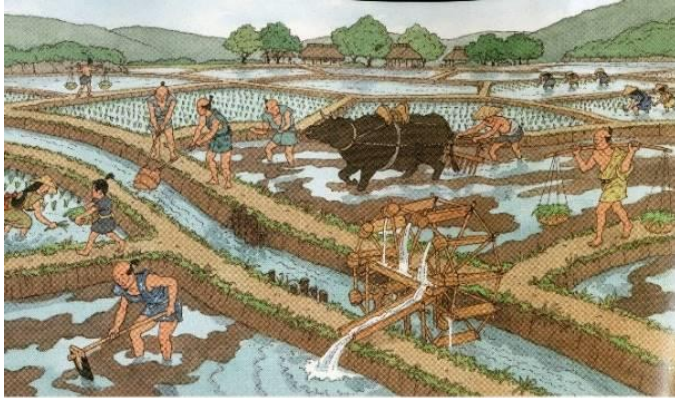
資料② 主な市や港, 港町と市の様子 改 (池野 範男ほか, 図解 小学社会 6年, 日本文教出版, P121)

資料③ 学芸員さんの話 (池野 範男ほか, 図解 小学社会 6年, 日本文教出版, P120)

資料④ はた織職人 (池野 範男ほか, 図解 小学社会 6年, 日本文教出版, P118)

資料⑤ 木のおけをつくる職人 (大石 学ほか, 小学社会 6, 教育出版株式会社, P122)

資料⑥ 裕福な庶民の生活 (松本 新八郎, 日本生活文化史 第四巻 庶民生活の上昇, 1984, 河出書房新社, P2)



②はた織り職人



①木のおけをつくる職人

じょうぶで水もれしない木のおけやたるは、酒やしょう油などの輸送に適していたため、生産量が大きく増えました。



学芸員さんの話

鎌倉時代の農民は、二毛作をしたり、牛や馬にすきをひかせて農地を深く耕し、草や灰を肥料にしたりするなどして、収穫を増やしていました。そして、農具や織り物、焼き物などの手工業が発達し、それらをつくる職人もあらわれてきました。

ものがたくさんつくられ、産業がさかんになると、人が多く集まる場所で市が開かれるようになり、各地からいろいろな品物が集まるようになりました。室町時代には、全国各地で特産物がつくられ、運ばれるようになりました。



寝具や調度品などの整った富裕な庶民の生活(福富草紙)